

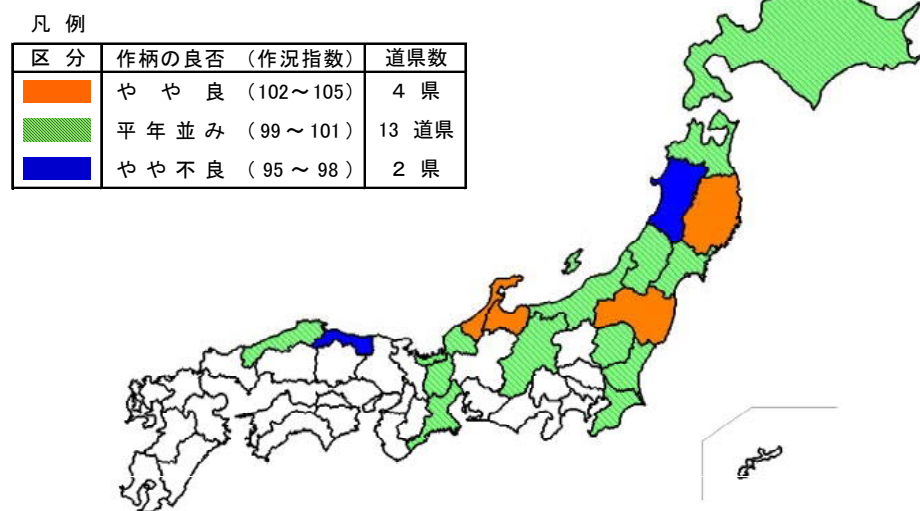
平成22年産水稲の8月15日現在における作柄概況

－ 8月15日現在の早場地帯の作柄はおおむね「平年並み」の見込み －

【調査結果の概要】

- 1 早場地帯（19道県）の作柄は、おおむね「平年並み」と見込まれる。
これは、5月下旬から6月上旬の低温等の影響により分けつが抑制され、北陸の一部地域を除き全もみ数が平年並みないし少ないと見込まれるものの、登熟は順調に推移していると見込まれるためである。
- 2 遅場地帯（沖縄県（第二期稲）を除く27都府県）の生育は、西日本を中心に6月中旬から7月中旬の日照不足等の影響により分けつが抑制され、「平年並み」ないし「やや不良」で推移している。

図 早場地帯の作柄の良否



注：地図上の白抜きの都府県は、遅場地帯を表す。

- 早場地帯とは、8月15日現在の出穂済面積割合が平年ベースでおおむね8割以上を占める道県であり、遅場地帯とはそれ以外の都府県である。
- 調査は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

この統計調査結果で使用している統計表は、政府統計の総合窓口(e-Stat)の「統計データ新着情報」でご覧になれます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

【関連するデータ、情報】

◎ 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針、及び米穀の需給見通しのための基礎資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための基礎資料
- ・ 農業災害補償法に基づく農作物共済事業において共済基準収穫量算定のための基礎資料
- ・ 水田・畑作経営所得安定対策（品目横断的経営安定対策）において収入減少影響緩和交付金算定のための基礎資料

◎関連データ

累年統計表

水陸稲の年次別推移（全国）

年 産	水 陸 稲 計		水 稲				
	作付面積	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	作 況 数	10 a 当たり 平 年 収 量
	ha	t	ha	kg	t		kg
昭.55	2 377 000	9 751 000	2 350 000	412	9 692 000	87	471
56	2 278 000	10 259 000	2 251 000	453	10 204 000	96	474
57	2 257 000	10 270 000	2 230 000	458	10 212 000	96	477
58	2 273 000	10 366 000	2 246 000	459	10 308 000	96	478
59	2 315 000	11 878 000	2 290 000	517	11 832 000	108	479
60	2 342 000	11 662 000	2 318 000	501	11 613 000	104	481
61	2 303 000	11 647 000	2 280 000	508	11 592 000	105	484
62	2 146 000	10 627 000	2 123 000	498	10 571 000	102	487
63	2 110 000	9 935 000	2 087 000	474	9 888 000	97	490
平.元	2 097 000	10 347 000	2 076 000	496	10 297 000	101	492
2	2 074 000	10 499 000	2 055 000	509	10 463 000	103	494
3	2 049 000	9 604 000	2 033 000	470	9 565 000	95	497
4	2 106 000	10 573 000	2 092 000	504	10 546 000	101	498
5	2 139 000	7 834 000	2 127 000	367	7 811 000	74	499
6	2 212 000	11 981 000	2 200 000	544	11 961 000	109	499
7	2 118 000	10 748 000	2 106 000	509	10 724 000	102	501
8	1 977 000	10 344 000	1 967 000	525	10 328 000	105	502
9	1 953 000	10 025 000	1 944 000	515	10 004 000	102	504
10	1 801 000	8 960 000	1 793 000	499	8 939 000	98	507
11	1 788 000	9 175 000	1 780 000	515	9 159 000	101	512
12	1 770 000	9 490 000	1 763 000	537	9 472 000	104	518
13	1 706 000	9 057 000	1 700 000	532	9 048 000	103	518
14	1 688 000	8 889 000	1 683 000	527	8 876 000	101	522
15	1 665 000	7 792 000	1 660 000	469	7 779 000	90	524
16	1 701 000	8 730 000	1 697 000	514	8 721 000	98	525
17	1 706 000	9 074 000	1 702 000	532	9 062 000	101	527
18	1 688 000	8 556 000	1 684 000	507	8 546 000	96	529
19	1 673 000	8 714 000	1 669 000	522	8 705 000	99	529
20	1 627 000	8 823 000	1 624 000	543	8 815 000	102	530
21	1 624 000	8 474 000	1 621 000	522	8 466 000	98	530

資料：農林水産省統計部『作物統計』

【統計表】

1 平成22年産水稲の都道府県別田植え及び出穂の状況（8月15日現在）

都道府県	田 植 期					出 穂 期					出穂 済面積 割合	対平 年差
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較		始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較			
				対平年	対前年				対平年	対前年		
月 日	月 日	月 日	日	日	日	月 日	月 日	月 日	日	日	%	ポイント
北海道	5. 22	5. 28	6. 2	4日遅	5日遅	7. 21	7. 27	8. 1	7日早	9日早	100	0
青森	5. 15	5. 19	5. 26	1日早	並み	7. 29	8. 2	8. 5	7日早	9日早	100	2
岩手	5. 13	5. 18	5. 26	2日遅	3日遅	7. 31	8. 4	8. 10	5日早	3日早	100	3
宮城	5. 4	5. 11	5. 20	1日遅	2日遅	7. 31	8. 3	8. 7	5日早	3日早	99	1
秋田	5. 14	5. 20	5. 26	1日遅	1日遅	7. 31	8. 3	8. 8	3日早	4日早	100	0
山形	5. 13	5. 19	5. 25	1日遅	2日遅	7. 31	8. 4	8. 12	5日早	4日早	100	4
福島	5. 8	5. 16	5. 23	2日遅	3日遅	8. 2	8. 8	8. 15	6日早	5日早	98	26
茨城	4. 28	5. 6	5. 21	1日遅	2日遅	7. 23	7. 31	8. 11	5日早	2日早	99	3
栃木	5. 1	5. 7	6. 14	並み	1日遅	7. 28	8. 3	...	4日早	2日早	88	3
群馬	5. 23	6. 15	6. 27	2日遅	4日遅	8. 7	40	15
埼玉	4. 28	5. 22	6. 29	1日遅	1日遅	7. 27	8. 11	...	2日早	2日早	60	2
千葉	4. 19	4. 27	5. 7	並み	1日遅	7. 15	7. 25	8. 7	5日早	3日早	100	0
東京都	6. 5	6. 12	6. 27	1日遅	1日早	8. 7	8. 13	...	5日早	3日早	70	38
神奈川県	5. 23	6. 1	6. 14	1日早	1日早	8. 2	8. 9	...	4日早	4日早	81	15
新潟	5. 5	5. 11	5. 21	1日遅	2日遅	7. 29	8. 7	8. 14	3日早	2日早	97	6
富山	5. 4	5. 14	5. 18	1日遅	3日遅	7. 23	8. 5	8. 13	2日早	2日早	98	0
石川	5. 1	5. 5	5. 19	並み	1日遅	7. 21	8. 3	8. 10	1日早	1日早	99	1
福井	4. 30	5. 15	5. 23	7日遅	6日遅	7. 20	8. 4	8. 14	3日遅	2日遅	97	△ 2
山梨	5. 14	5. 31	6. 14	2日遅	2日遅	8. 3	8. 11	...	3日早	3日早	76	8
長野	5. 12	5. 21	5. 30	1日遅	1日遅	7. 30	8. 6	8. 14	4日早	5日早	96	9
岐阜	5. 2	5. 27	6. 10	1日遅	2日遅	7. 22	49	1
静岡県	4. 28	5. 21	6. 11	2日早	1日早	7. 23	8. 9	...	5日早	5日早	63	5
愛知県	4. 30	5. 23	6. 8	2日遅	2日遅	7. 26	42	△ 2
三重	4. 17	4. 30	5. 13	1日遅	1日遅	7. 18	7. 27	8. 8	2日遅	3日遅	97	△ 2
滋賀	5. 3	5. 10	5. 26	1日遅	2日遅	7. 29	8. 3	...	並み	1日遅	87	1
京都	5. 6	5. 22	6. 5	並み	並み	7. 26	8. 6	...	3日早	2日早	79	3
大阪	5. 22	6. 7	6. 17	1日遅	1日遅	8. 2	24	△ 1
兵庫県	5. 11	6. 3	6. 14	1日遅	1日遅	7. 30	8. 12	...	1日早	並み	66	6
奈良	5. 6	6. 7	6. 14	並み	並み	7. 31	30	△ 1
和歌山	5. 3	6. 4	6. 16	並み	並み	7. 19	8. 8	...	並み	並み	83	0
鳥取	5. 8	5. 23	6. 5	並み	1日遅	7. 30	8. 7	...	2日早	4日早	86	4
島根	5. 5	5. 17	5. 31	4日遅	5日遅	7. 25	8. 5	...	1日遅	2日早	83	△ 6
岡山	5. 15	6. 7	6. 18	2日遅	3日遅	7. 24	42	2
広島	5. 3	5. 20	6. 4	3日遅	1日遅	7. 27	8. 11	...	3日遅	1日遅	66	△ 8
山口	5. 12	5. 30	6. 18	並み	並み	7. 30	8. 9	...	3日早	5日早	66	5
徳島	4. 6	4. 18	5. 5	1日遅	2日遅	7. 11	7. 18	7. 25	2日遅	4日遅	100	0
香川	4. 26	5. 22	6. 14	1日早	1日遅	7. 17	8. 1	...	3日早	並み	84	3
愛媛	5. 4	6. 13	6. 25	1日遅	並み	7. 23	41	1
高知	4. 25	6. 2	6. 20	並み	並み	7. 17	8. 15	...	2日遅	2日遅	54	△ 1
福岡	4. 2	4. 11	4. 21	並み	2日遅	7. 3	7. 11	7. 20	5日遅	6日遅	100	0
佐賀	5. 16	5. 28	6. 21	2日遅	2日遅	8. 15	8	△ 9
熊本	5. 14	6. 16	6. 25	2日早	並み	8. 2	32	1
大分	5. 4	6. 19	6. 29	2日早	1日早	7. 21	18	0
宮崎	4. 20	6. 14	6. 29	1日遅	1日早	7. 19	16	△ 1
鹿児島	4. 21	6. 14	7. 4	1日遅	1日早	7. 13	20	△ 2
沖縄	5. 18	6. 13	6. 27	1日遅	並み	8. 2	18	△ 6
宮崎	3. 19	3. 27	4. 3	並み	2日遅	6. 27	7. 2	7. 6	6日遅	10日遅	100	0
鹿児島	6. 1	6. 16	6. 27	1日遅	1日早	2	△ 1
鹿儿島	3. 25	4. 2	4. 13	1日早	1日早	6. 24	6. 30	7. 9	2日遅	4日遅	100	0
沖縄	6. 12	6. 21	7. 1	1日遅	1日遅
沖縄	2. 16	3. 3	3. 22	1日遅	3日遅	5. 3	5. 15	5. 27	6日早	並み	100	0

注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植え及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。
 2 出穂期の「始期」、「最盛期」及び「終期」の欄の「…」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないためである。
 3 出穂済面積割合欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

2 平成22年産水稻早場地帯の作柄概況（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較				
	作柄の良否	穂数の多少	一穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
北海道	平年並み	少ない	やや多い	少ない	やや良
青森	平年並み	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
岩手	やや良	少ない	多い	やや少ない	やや良
宮城	平年並み	少ない	多い	やや少ない	やや良
秋田	やや不良	少ない	多い	少ない	やや良
山形	平年並み	少ない	多い	やや少ない	やや良
福島	やや良	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
茨城	平年並み	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
栃木	平年並み	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良
千葉	平年並み	平年並み	平年並み	やや少ない	やや良
新潟	平年並み	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
富山	やや良	少ない	多い	平年並み	やや良
石川	やや良	少ない	多い	やや多い	平年並み
福井	平年並み	少ない	多い	平年並み	やや良
長野	平年並み	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
三重	平年並み	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
滋賀	平年並み	少ない	多い	平年並み	平年並み
鳥取	やや不良	少ない	多い	やや少ない	やや良
島根	平年並み	少ない	多い	やや少ない	やや良

注：1 本表で用いる作柄の良否の表示区分は、「良」が作況指数106以上、「やや良」が102～105、「平年並み」が99～101、「やや不良」が95～98、「不良」が94以下に相当する。

2 本表で「穂数の多少」、「一穂当たりもみ数の多少」、「全もみ数の多少」、「登熟の良否」に用いた表示区分は、「多い(良)」が対平年比106%以上、「やや多い(やや良)」が同102～105%、「平年並み」が同99～101%、「やや少ない(やや不良)」が同95～98%、「少ない(不良)」が同94%以下に相当する。

3 平成22年産水稻遅場地帯の生育状況（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較		
	生 育 の 良 否	草 丈 の 長 短	茎 数 の 多 少
群 馬	平年並み	平年並み	平年並み
埼 玉	平年並み	やや長い	平年並み
東 京	平年並み	平年並み	平年並み
神 奈 川	平年並み	やや長い	やや少ない
山 梨	平年並み	長 い	やや少ない
岐 阜	平年並み	やや長い	やや少ない
静 岡	平年並み	平年並み	平年並み
愛 知	やや不良	平年並み	やや少ない
京 都	平年並み	長 い	少 ない
大 阪	平年並み	平年並み	やや少ない
兵 庫	平年並み	やや長い	やや少ない
奈 良	平年並み	平年並み	やや少ない
和 歌 山	平年並み	平年並み	やや少ない
岡 山	平年並み	平年並み	やや少ない
広 島	やや不良	平年並み	少 ない
山 口	やや不良	平年並み	やや少ない
徳 島 (普通栽培)	やや不良	やや長い	少 ない
香 川	平年並み	長 い	やや少ない
愛 媛	やや不良	やや長い	少 ない
高 知 (普通栽培)	やや不良	平年並み	少 ない
福 岡	平年並み	平年並み	平年並み
佐 賀	平年並み	平年並み	平年並み
長 崎	平年並み	やや短い	平年並み
熊 本	平年並み	平年並み	やや少ない
大 分	平年並み	平年並み	平年並み
宮 崎 (普通栽培)	やや不良	やや短い	やや少ない
鹿 児 島 (普通栽培)	やや不良	平年並み	やや少ない

注： 生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。

4 平成22年産水稻早期栽培等の作柄概況（西南暖地・8月15日現在）

(1) 10a当たり（予想）収量

区 分	10 a 当たり (予想)収量 ①	10 a 当たり 平年収量 ②	(参 考)		
			予想収穫量 ③=①×④	1)作付面積 (子実用、見込み) ④	作 況 指 数 ⑤=①/②
	kg	kg	t	ha	
徳 島	451	463	23 400	5 190	97
高 知	466	478	35 800	7 690	97
宮 崎	479	478	…	…	100
鹿 児 島	430	439	25 200	5 870	98
沖 縄	375	370	2 220	591	101

- 注：1 1)の作付面積（子実用、見込み）については、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変動する可能性がある。なお、宮崎県は関係機関等において作付面積を取りまとめ中であるため、「…」で示している。
- 2 沖縄県は第一期稲である（以下（2）の統計表について同じ。）。
- 3 全国の水稻作付面積に占める西南暖地における早期栽培等の割合は、平成21年産で1.8%となっている。

(2) 作柄概況及び刈取済面積割合

区 分	平 年 比 較				刈 取 済 面 積 割 合	対 平 年 差
	穂 数 の 多 少	一 穂 当 た り も み 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否		
					%	ポイント
徳 島	少ない	平年並み	少ない	やや良	4	△ 20
高 知	少ない	平年並み	少ない	良	50	△ 28
宮 崎	少ない	やや多い	やや少ない	やや良	93	△ 7
鹿 児 島	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	90	△ 5
沖 縄	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	100	0

- 注：1 本表で「穂数の多少」、「一穂当たりもみ数の多少」、「全もみ数の多少」、「登熟の良否」に用いた表示区分は、「多い(良)」が対平年比106%以上、「やや多い(やや良)」が同102~105%、「平年並み」が同99~101%、「やや少ない(やや不良)」が同95~98%、「少ない(不良)」が同94%以下に相当する。
- 2 刈取済面積割合欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

区分	調査対象都道府県	備考
早期栽培等	徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	8月中旬頃までに刈り取りがおおむね終了する早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める県及び二期作のうちの第一期稲の沖縄県の該当地域
早場地帯	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、三重県、滋賀県、鳥取県、島根県	8月15日現在の出穂済面積割合が、平年ベースでおおむね8割以上を占める道県
遅場地帯	早場地域の道県以外の都府県	

なお、沖縄県の第二期稲については、8月15日現在で田植え前の地域があり、田植期等の判断ができないことから、表記していない。

3 調査対象数

作況標本筆調査：10,285筆 作況基準筆調査：615筆 巡回・見積り：1,728市町村

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

5 調査期間

8月15日現在で水稲の生育・作柄概況を調査した。

6 調査方法

調査は、作況標本筆、作況基準筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

8 用語の解説

- (1) 「穂数の多少」とは、1㎡当りに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (2) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

- (4) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (5) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較である。
- (6) 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり(予想)収量の比率である。
- (7) 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

9 利用上の注意

本調査（8月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

米関係ページ：農林水産省>食料 <http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>
農林水産省>生産 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

米政策関連ページ：<http://www.maff.go.jp/j/soushoku/jyukyu/komeseisaku/>

全国米穀取引・価格形成センター：<http://www.komekakakucenter.jp/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 普通作物統計班
電話：03（3502）5687

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画課 広報普及班
電話：03（6744）2037